
久能忠義

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

久能忠義

【Nコード】

N1272Y

【作者名】

ごほんライス

【あらすじ】

2000字設定。「バンドオンザラン・プラス」形式。改稿はま
だです。実験的作品。

アメリカが空襲を開始した。えらいこっちゃ。

そのニュースを松山謙一がテレビで見たとき、久能忠義はのんきに川で釣りをしていた。

すでに三びき釣っている。

あ。川じゃなかった。池である。どっちでもいいか。

勝田浩二は、釣りは好きだったが、魚を必ず川に返した。海とかではない。というのは、浩二は海の近くに住んでいない。

浩二が喫茶店「お茶ヤロー」に入ったとき、すでに名古屋は火の海だった。

ざああああああああ。

浩二は雨がやんでから喫茶店を出ようと思った。

勝山市に大きな湖がある。その湖のほとりで、啓一は生まれた。啓一は、浩二の甥である。啓一が中学生のとき、彼はバスケット部に入っていた。厳しい先生で、毎日、竹刀で叩かれていた。

「うぎゃあああああああ」

ざああああああああ。

啓一の友達の兄、松夫は、カエルをてんぷらにして食っていた。お金がない貧困層なのだ。

「はあ……」

ため息だつて出てしまうものだ。

松夫は、ある日、コンビニ強盗した。だから、逮捕された。

パトカーの中で、松夫はうんこをもらってしまった。刑務所生活を想像したら緊張してきたのである。

「臭え」

「やりよつた」

「うわああああん。うわああああああん。プロ作家になりたあああ

ああい。プロ作家になりたああああああい」

ざああああああああああ。

松夫の友達、山田は考えていた。お客様には笑顔でいなきゃいけない。山田はそう考えていた。

しかし、ストレスがたまり、つい粗い接客になってしまうことがある。

今日は、仕事が終わったら、ビデオボックスに行こうと思った。

いったいいつ貧困から脱出できるのか。胃が痛い。

しかし、小説は書かねばならない。書きつづけなければいけない。

ざああああああああ。

照る照る坊主が悲しげな顔をしていた。

山田は考える。

厚生年金プラス国民年金で、月に30万とか25万もらってるじじいども、全員ぶつ殺したい。

テレビで「幸せですよ。贅沢は言えません」みたいに言ってるのを見たら、ほんまにぶつ殺したくてぶつ殺したくてたまらんかった。

金属バットで頭を叩きたかった。脳みそ散らばせたかった。

国民年金6万6000円で裁縫の仕事で3万得ている80のおばあさん、何とかしてあげたい。食事は、90くらいの、おばあさんの友達いわく「味が薄い」

テレビで「若者には感謝しています」と言ってるのをみたら、ごめんなさいごめんなさいごめんなさいと叫んだ。

若年アルバイトはフルタイムで働いて11万〜16万。

オレの場合、本年度、還付金が2万くらい来た。

そのすぐあと市県民税1万2000円の催促状が来た。

「ぶざけんな！！！！」

週30時間働いてるアルバイトは、厚生年金と社会保険の支払いが月に10500円。

週30時間以下のアルバイトは、国民健保と国民年金の支払いが月に24000円。

おじいさん世代の年金支払いは、給料の3%だったらしいぜ。給料24万だったら、わずかに3600円。

収入は減るわ、年金の率は上がるわ、若者は悲鳴を上げてる。秋葉原の通り魔事件が他人事じゃない。あれは倫理とか公的精神道徳の欠如とか、そういう問題ちゃうよ。完全に、労働と貧困の問題さ。正社員が通り魔したなんて話聞いたことねえ。

ざああああああああああああ。

そうはいつでも、前進せねばならない。山田はそう考える。

日本に夜明けは来るのか。

太陽は昇るのか。

ざああああああああああああ。

織田尾駄長が、最近、ブームになってる。経営者も貧困アルバイトも、尾駄長に関する本を読みあさってる。不況が長引いてるので、陰鬱な気分を吹き飛ばすために、明るい尾駄長の陽気な人生観がウケてるのかも知れない。山田も本を買った。

尾駄長は、爆乳二年、織田国、織田城主、織田尾駄秀の長男として生まれた。幼名は、尾駄千代である。

小さい頃の尾駄長は、漫画を描いていた。手塚治虫が好きだった。将来は漫画家になりたかったが、父尾駄秀が政治家であったため、政治の勉強もした。

そして、小学生の終わり頃、ビートルズの音楽と出会う。父に、ゴミ捨て場でガットギターを拾ってきてもらい、それを弾きまくり、録音したりしていた。

中学生のとき、ダウンタウンと出会う。今でこそダウンタウンは大御所だが、当時は始めだった。斬新なお笑いが若者にウケていた。尾駄長もはまって、ダウンタウンの番組はほとんど観ていた。

大学の後半から、小説にはまってきた。筒井康隆の本を貪るように読んだ。

そして、三四歳のとき、すばる文学賞に投稿するが落選してしまった。

ざああああああああ。

てるてる坊主が悲しげな顔をしている。いつ雨はやむのか。ずっと降り続けるのか。んなアホな。

山田は思つ。進まねばならない。理屈なんてない。進む。それが大事。

どんなに困難でも、どんなに陰鬱でも、進む。それがすべて。

すすんですすんで、その先に何かがあるか。そんなの誰にもわかんない。でも。

ざああああああああ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1272y/>

久能忠義

2011年11月1日19時20分発行